

鹿児島県立楠^{なん}隼^{しゆん}中学校

適性検査Ⅱ（模擬問題）

（時間四十五分）

※ この問題の内容は、小学五年生の二学期終了までに学習した内容です。小学六年生で学習する内容も含まれます。

※ この問題は、言語に関する内容です。

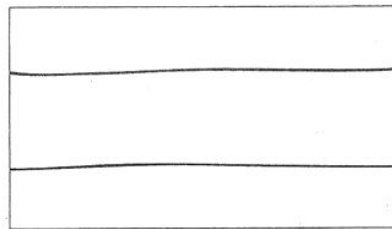
次の文章は、宮沢章夫さんという大学教授の「地図の魅力とその見方」をテーマにした講演を文章にしたものです。これを読んで後の問いに答えなさい。（設問の都合上、固有名詞を省略している部分があります。）

地図を描くのは、記号の約束事を踏まえた技法の一つに過ぎない。それだけで自然物や人工物、ましてや人の心を本当に表現し、把握したことになるか。

そうではない、ということと逆に地図から教えられた気がするのだ。地図というものは確かにこの世の中に存在する。けれども、本当に私たちは地図を描けるのか。かなり疑ってかからなければいけないと考えている。

というのも、画家の中村信夫さんが書いた『少年アト』(弓立社)という本を読んでいて、思わず目を見開いた箇所があるからだ。

「江の島の駅に子供の絵が二十枚展示されていたことがありますが。それは、先生に引率されて行った動物園で、象をA4サイズの画用紙に描いたものでした。その中にひとつ、横の方に二本の線が引かれて



ゾウの絵(編集部作成)

いるだけの絵があった。他の絵には象がちゃんと描かれているし、背景に星が飛んでいたりするのですが、その絵だけ二本の線だけなんです。その下に「I」と先生の説明が添えてありました。たぶん、その子の目には象は大きすぎて、鼻の部分の二本の線が、画用紙に見合うサイズだったのでしよう。教育された意識によって暗黙のうちにカッコつきの象を描いたのではなく、この子は、自分の目で見たものだけを一番素直に、画用紙に定着させたのです。僕が日本に帰ってきて一番感動したのは、この絵でした」

中村信夫さんはこのように述べている。僕も同じように感動した。

I 「これはものすごいことだ。」

私たちはなぜ象を疑いもなく描いてしまうのだろう。もっと言えば、どうして「山の八合目に波線」で富士山を表したつもりになっているのだろう。

子どもの頃から私たちは教えられてきた。象ならこのように描け、と。しかし、象の全身は大きすぎて画用紙に入り切らないから二本の線だけ描いて象の鼻。これだって確かに「象の絵」にはちがいない。

自宅の近くに、A小学校と、B小学校がある。消防週間になると1、2年生が描いた消防自動車の絵が展示される。毎年、それを見るのを楽しみにしている。

A小学校のほうは、みんなうまい。大人が見てうまいと思うような絵。こういうふうを描くと大人が喜んでくれる、褒めてくれることを知っているな、という気がする。それを否定するわけではないし、いけないとも思わない。それも一つの絵の描き方だ。

一方、B小学校の1、2年生が描いた消防車の絵は、正直いつて爆笑も。でたためこの上ない。ただひたすら赤くて丸い、得体の知れない物体が描かれているとか、そんな絵ばかりで、これはすごいなど、かえって感動する。まさしく、二本の線だけで象を描くのと同じ精神がみなぎっている。

地図は記号の約束事を踏まえた技法のひとつだ。しかし、いつもその技法に縛られては、つまらない。僕は、遊びに来る友だちのために駅から自宅までの道を地図にすると、き、ありもしない海や空港を描いたりする。そんなことをしても、友だちには何の役にも立たない。ただ単に、自分の楽しみのためにやっている。

大学の授業も、テレビ番組のように映像でタイトルをつくり、バックに音楽を流したりする。学生が喜ぶからとか、見た目のよさとか、そんなつもりは一切ない。それをつくること自体がおもしろいからやっているだけだ。

道順さえきちんと描いてあれば、それ以外の所には何かあってもかまわない。自分自身が楽しむために、そういう変てこりんな地図があってもいいでは

ないか。そう思う。江の子どもが2本の線だけで象を描いたのと同じように。

原寸大の地図を描くことはできない。その大前提のうえに、地図のさまざまな技法が成り立っている。このサイズの中に、こんな縮尺で必要な記号や文字を入れ込まなければいけない、といった具合に。

しかし、そこから自由に逸脱することも、私たちには許されている。多様な側面を持つ地図を、今までとは違う角度から眺めてみてはどうだろうか。

(「私と世界、世界の私」による)

「注」 暗黙——黙っていて何も言わないこと。

八合目——登山路で、頂上までの道のりの十分の八。

原寸大——実物と同じ大きさ。

逸脱——本来のすじみちからはずれること。

問い1 文中に二か所ある **I** では、ある子どもが象を

二本の線で描いた理由を、先生が語っています。先生が語った言葉を本文の内容にそって、二十字以上三十字以内で書きなさい。ただし、句読点も一字と数えます。

問い2 —線部「一つの絵の描き方」とはどういう絵の描き方でしょうか。本文のことはを使って二十字以内で説明しなさい。ただし、句読点も一字と数えます。

問い3

その1 左のポスターには、英語で「終わり」などの意味をもつ題名がつけられています。あなたは何が「終わり」だと考えますか。解答欄に書きなさい。また、そう考えた理由を百字以上百四十字以内で書きなさい。



青葉 益輝 「THE END」

(ポスター中の白く見える部分には題名である「THE END」が書かれています。)

その2 このポスターの表現について、あなたが感じたことや考えたことを、本文の内容に関連づけながら、後の条件にしたがって書きなさい。

① 字数は二百四十字以上三百字以内とします。ただし、句読点、書き出しや段落を変えたときの空欄も一字と数えます。

② 名前は書かずに、一行目から本文を書きなさい。